

## [総会資料と決定事項]

## 日本透析医会通常総会資料および主な決定事項

日本透析医会通常総会が平成 20 年 5 月 18 日（日）午後 2 時からホテルマイステイズ御茶ノ水（東京）にて開催された。以下に、その際の資料（抜粋）と主な決定事項を報告する。

（社）日本透析医会通常総会資料

Ⅰ 平成 19 年度事業報告書

Ⅱ 平成 19 年度財務諸表

Ⅲ 平成 20 年度事業計画（案）

Ⅳ 平成 20 年度予算（案）

平成 20 年度通常総会報告での主な決定事項

（社）日本透析医会通常総会議事録

（社）日本透析医会役員名簿

## (社) 日本透析医会通常総会資料

### 第1号議案

### 平成19年度事業報告書

#### 第1会議

##### 総会

##### 1. 平成19年度通常総会

- 平成19年5月20日 第1号議案 平成18年度事業報告及び収支決算の承認を求める件  
第2号議案 平成19年度事業計画及び予算の承認を求める件  
第3号議案 役員の任期満了に伴う新役員の承認を求める件  
第4号議案 その他

##### 理事会

##### 1. 平成19年5月20日

##### 通常総会付議事項

- 第1号議案 平成18年度事業報告及び収支決算の承認を求める件  
第2号議案 平成19年度事業計画及び予算の承認を求める件  
第3号議案 役員の任期満了に伴う新役員の承認を求める件  
第4号議案 その他

##### 常任理事会

##### 1. 平成19年4月27日

##### 協議事項

- (1) 生活保護（医療扶助）と自立支援医療（更生医療）請求の線引きについて  
(2) 医療機器に係る安全管理のための体制確保に係る運用上の留意点について

##### 報告事項

- (1) 平成19年度厚生労働科学研究費補助金（医療安全・医療技術評価総合研究事業）国庫補助の交付基準等について  
(2) 平成18年度決算について  
(3) 能登半島沖地震について  
(4) 委員会報告について  
    感染対策部会，医療廃棄物対策部会  
(5) その他

##### 2. 平成19年5月20日

##### 協議事項

- 第1号議案 平成18年度事業報告及び収支決算の承認を求める件  
第2号議案 平成19年度事業計画及び予算の承認を求める件

第3号議案 役員の任期満了に伴う新役員の承認を求める件

第4号議案 その他

3. 平成19年6月22日

報告事項

- (1) 標榜診療科に対する「要望書の提出」について
- (2) レセプト分析調査について
- (3) アンケート「通院困難な透析患者への対応，及び長期入院透析患者の実態調査」の中間報告について
- (4) その他

4. 平成19年7月27日

協議事項

- (1) 印刷業者の変更について
- (2) 医薬品の安全管理体制について

報告事項

- (1) 「通院困難な透析患者への対応，及び長期入院透析患者の実態調査」
- (2) 委員会報告について  
広報委員会，感染対策部会，医療事故対策部会
- (3) 平成19年度厚生労働科学研究費補助金交付決定通知書について
- (4) 自立支援医療（更生医療）に於ける腎臓機能障害の適用範囲について
- (5) 厚生労働省保険局医療課との打ち合わせについて
- (6) その他

5. 平成19年9月28日

協議事項

- (1) 災害対策重点項目の作成について
- (2) 医会刊行物に関する利用許諾願いについて
- (3) 印刷業者の変更について（再協議）

報告事項

- (1) 20周年記念シンポジウム開催について
- (2) 在宅血液透析における医療廃棄物処理（アンケート調査）について
- (3) 医療廃棄物関連情報について（記事：読売ウィークリー）
- (4) 委員会報告について  
合併症対策委員会，感染対策部会，医療事故対策部会
- (5) 石川県支部の設立について
- (6) その他

6. 平成19年10月26日

協議事項

- (1) レセプト分析調査について
- (2) 日本財団の運営する「CANPAN」に登録する件について
- (3) その他
  - ① 医会のロゴマークについて
  - ② 災害時情報アンケート調査（日本財団助成事業）について
  - ③ 公募研究の助成審査結果について

## ④ 災害時情報（某会社製）カードについて

- 報告事項
- (1) 平成 19 年度中間決算について
  - (2) 委員会報告について  
広報委員会，適正医療経済部会
  - (3) その他

## 7. 平成 19 年 11 月 16 日

- 報告事項
- (1) 特定公益増進法人の証明について
  - (2) レセプト分析調査の最終報告について
  - (3) 診療報酬の改定に向け厚生労働省保険局医療課との話し合いについて
  - (4) その他

## 8. 平成 19 年 12 月 21 日

- 協議事項
- (1) 透析導入時および転入時の同意書の作成について

- 報告事項
- (1) 平成 20 年度診療報酬改定に関する要望書の提出について
  - (2) 中医協診療報酬基本問題小委員会資料について
  - (3) 医療事故対策部会報告について
  - (4) 慢性腎臓病（CKD）対策協議会への協力依頼について
  - (5) 災害時医療支援船事業報告・講演会について
  - (6) その他

## 9. 平成 20 年 1 月 25 日

- 協議事項
- (1) 公募助成に対する研究報告書（カラー写真）の医会雑誌掲載時の扱いについて
  - (2) 透析患者の「カルテカード」について

- 報告事項
- (1) 平成 18 年度「災害時医療支援船事業」の評価結果について
  - (3) レグパラ<sup>®</sup>錠の保険請求に関する要望について
  - (3) 公益法人制度改革の概要について
  - (4) その他

## 10. 平成 20 年 2 月 22 日

- 報告事項
- (1) 平成 20 年度診療報酬改定について
  - (2) 平成 19 年度仮決算について
  - (3) 「災害時の緊急連絡体制」のアンケートについて
  - (4) 委員会報告について  
広報委員会，災害時医療支援船事故報告・講演会
  - (5) その他

## 11. 平成 20 年 3 月 28 日

- 協議事項
- (1) 平成 20 年度通常理事会及び通常総会の開催について

(2) イリジウム（衛星携帯電話）の今後の使用について

報告事項

- (1) 透析機器（ダイアライザー）の値下げに対する医会の対応について
- (2) 委員会報告について  
医療廃棄物対策部会，研修委員会
- (3) その他

## 第2 委員会

## 平成19年度委員会開催状況

(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

委員会	開催年月日	備考
1. 適正透析療法委員会 (1) 適正透析導入部会 (2) 維持透析療法部会 (3) 適正透析普及部会 (4) 適正医療経済部会  (5) 医療廃棄物対策部会 (6) 在宅血液透析部会 (7) 医療制度検討部会	平成20年03月28日 平成19年06月16日 平成19年07月12日 平成19年10月19日 平成19年10月26日  平成20年03月19日	保険審査懇談会 レセプト調査  レセプト調査
2. 医療安全対策委員会 (1) 災害時透析医療対策部会 (2) 感染症対策部会  (3) 医療事故対策部会	平成19年06月16日 平成19年06月28日 平成19年09月06日 平成19年12月20日 平成20年01月31日 平成20年02月29日  平成19年07月03日 平成19年09月04日 平成19年11月12日 平成19年12月17日	情報ネットワーク会議
3. 合併症対策委員会	平成19年08月03日	
4. 腎移植普及推進委員会		
5. 腎不全予防医学調査研究委員会		
6. 研修委員会	平成20年03月02日	
7. 広報委員会	平成19年06月21日 平成19年10月11日 平成20年02月14日	
8. 情報管理委員会		
9. 内規委員会		
10. 倫理委員会		
11. 学会等助成審査委員会	平成19年04月27日 平成19年06月22日 平成19年07月27日 平成19年09月28日 平成19年12月21日 平成20年01月25日	
12. 学会等研究助成交付審査委員会	平成19年10月29日	

## 平成 19 年度委員会報告

## 1. 適正透析療法委員会

## (1) 適正透析導入部会

透析導入者審査委員会設置支部（愛知）に助成した。  
報告については 20 年度の日本透析医会雑誌に掲載する。

## (2) 適正透析普及部会

（平成 19 年度 1 回開催）

支部長会議を開催し、20 年度診療報酬改定の対応について経緯を説明した。  
法人見直しおよび来年の役員改選について会長より説明があった。

## (3) 適正医療経済部会

（平成 19 年度 4 回開催）

1) 透析医療費の分析調査について検討し、病院及び診療所（184 施設）の協力をいただき、平成 19 年 6 月分外来透析レセプトの集計が行われた。報告については、20 年度の日本透析医会雑誌に掲載する。

2) 第 12 回透析保険審査委員懇談会を開催した。検討事項で基本診療科・検査・投薬・注射・処置・手術と診療行為別に討論をおこなった。また、事前にアンケートを行い、要望事項で 163 件と多くの回答をいただいた。

報告については、日本透析医会雑誌（Vol. 22-3）に掲載した。

## (4) 医療廃棄物対策部会

（平成 19 年度 1 回開催）

- 1) 日本の医療廃棄物の現況について
- 2) 今後の医療廃棄物の取り組み方について

## 2. 医療安全対策委員会

## (1) 災害時透析医療対策部会

（平成 19 年度 1 回開催）

## 1) 災害時活動

平成 19 年は、石川県能登半島地震、新潟県中越沖地震と、震度 6 強の大地震が 2 度も襲来した。幸いなことにこれらの地震による透析施設の被害は少なかったが、断水により一時透析不能に陥る被害が発生した。両地域の方々が粉骨砕身して対応されるなか、本ネットワークも微力ながら情報共有に貢献できたと考えている。

以下に平成 19 年度の災害時活動を示した。

- 能登半島で震度 6 強（3 月 25 日～4 月 16 日）  
断水により 2 施設で一時透析不能
- 三重県北部で震度 5 強（4 月 15 日～4 月 16 日）
- 岡山市田町の水道管破裂事故（5 月 20 日）
- 北見市で水道水の強い混濁騒ぎ（6 月 25 日）  
1 施設に給水車で水を得て HD、1 施設は ECUM で対応
- 新潟県中越沖で震度 6 強（7 月 16 日～7 月 30 日）  
断水により 1 施設で一時透析不能
- 千葉県一宮町で震度 5 弱（8 月 18 日～8 月 20 日）
- 神奈川県北部で震度 5 強（10 月 1 日～10 月 2 日）

- 石川県（輪島市）で震度5弱（1月26日）

その他台風2件，大雨1件

- 2) 6月16日，大阪大学中之島センターにおいて第8回災害情報ネットワーク会議を開催し，48名の参加を得て活動に関する活発な討論が行われた。

- 3) 9月4日，第8回災害時情報伝達を行い，32都道府県743施設の参加を得た。

青森	= 9	岩手	= 2	福島	= 1	栃木	= 21	千葉	= 75	東京	= 138
神奈川	= 5	新潟	= 16	富山	= 2	山梨	= 18	長野	= 62	岐阜	= 1
静岡	= 30	愛知	= 112	三重	= 4	京都	= 1	大阪	= 39	兵庫	= 27
和歌山	= 6	鳥取	= 2	島根	= 11	岡山	= 58	広島	= 21	山口	= 12
徳島	= 1	香川	= 12	高知	= 25	福岡	= 4	佐賀	= 1	大分	= 2
宮崎	= 12	鹿児島	= 13								

- 4) 情報システム・メーリングリスト保守管理

taisaku\_ml 登録アドレス数 128

joho\_ml 登録アドレス数 596

- (2) 感染対策部会

（平成19年度5回開催）

- 1) 透析医療における標準的な透析操作と院内感染予防に関するマニュアル（三訂版）発刊について協議した。
- 2) マニュアル（三訂版）を作製し，20年度会員宛に発送する予定である。

- (3) 医療事故対策部会

（平成19年度4回開催）

- 1) 医療機器の安全管理体制確保に係わる運用上の留意点（2007年版）および医療安全管理指針：医薬品の安全管理義務化への対応策について協議した。
- 2) マニュアルを作製し，20年度会員宛に発送する予定である。

3. 合併症対策委員会

（平成19年度1回開催）

透析患者の合併症とその対策 No. 17「バスキュラーアクセスの管理」の発刊等について検討し，3月末に会員に送付した。

4. 腎移植普及推進委員会

社団法人日本臓器移植ネットワーク運営事業に協力した。

5. 腎不全予防医学調査研究委員会

「腎不全治療マニュアル2007」を会員に発送した。

6. 研修委員会

（平成19年度2回開催）

- (1) 医会支部の学術研究に助成した。

- 1) 広島県透析連絡協議会

研究課題：「閉経後透析女性における性ホルモンが骨・動脈に与える影響」

- 2) 新潟県透析医会

研究課題：「長期透析患者における日常生活動作の障害と透析アミロイドーシスの関連」

(2) 医会支部が開催した研修会・講演会に助成した。

支 部 名	会 場	開催年月日
北海道透析医会	札幌全日空ホテル	平成 19 年 7 月 28 日
青森県透析医会	八戸市民センター	平成 19 年 6 月 3 日
宮城県透析医会	フォレスト仙台	平成 19 年 12 月 9 日
鹿児島県透析医会	城山観光ホテル	平成 19 年 6 月 30 日
大阪府透析医会	天王寺都ホテル	平成 19 年 4 月 21 日
広島県透析連絡協議会	リーガロイヤルホテル広島	平成 20 年 4 月 12 日
愛知県透析医会	名古屋国際ホール	平成 19 年 11 月 25 日

(3) (社) 日本透析医会創立 20 周年シンポジウムを開催し、154 名が参加した。

「維持透析療法の現況と将来の課題 ―今われわれの為すべきこと―」

日 時：平成 19 年 10 月 21 日（日）

午前 9 時～午後 3 時 5 分

場 所：品川プリンスホテル

司 会：太田圭洋（名古屋記念病院）

講演者：山崎親雄（増子クリニック 昇）ほか 5 名

(4) (社) 日本透析医会研修セミナーを開催し 173 名が参加した。

日 時：平成 20 年 3 月 2 日（日）

午前 9 時～午後 3 時 10 分

場 所：品川コクヨホール

講演者：石川 勲（医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院）他 5 名

(5) 20 年度のシンポジウムは平成 20 年 10 月 5 日（日）品川コクヨホールで開催することが決定し、講演内容はホームページに掲載済である。

また、研修セミナーについても平成 21 年 3 月 8 日（日）品川コクヨホールで開催することが決定した。

## 7. 広報委員会

（平成 19 年度 3 回開催）

(1) 日本透析医会雑誌の企画・編集等について、討議された。

(2) 医会雑誌 Vol. 22 No. 1 発刊

1) ガイドライン作成の基本的スタンス

2) Ca/P 管理目標とその設定根拠

3) 二次性副甲状腺機能亢進症と骨代謝

4) 副甲状腺インターベンション

5) 二次性副甲状腺機能亢進症ガイドライン―今後の課題と問題点―

6) 第 10 回透析医療費実態調査報告―レセプト調査からみた透析医療診療報酬の変遷を含めて―

7) 透析医療の国際比較

8) 災害時患者搬送における河川利用の問題点

- 9) 広島県呉市における長期断水とその対策
  - 10) 高齢者透析患者の脳心血管系合併症治療の実態—アンケート調査より—
  - 11) バスキュラーアクセスに対する当院における治療成績—インターベンションから外科的治療への判断—
  - 12) 糖尿病性足病変の治療の実際
  - 13) 手術時間の短縮をめざしたシャント作製術—後壁を一点固定し、縫い代 (bite) に考慮した縫合法—
  - 14) 透析患者の栄養管理における NST の役割
  - 15) 透析医療における電子カルテ導入による功罪—
  - 16) 腎不全における代謝異常—予後の改善をめざして—
  - 17) 血液透析に伴う認知症
  - 18) 2006 年診療報酬改定後の透析施設シミュレーション
  - 19) 透析医のひとりごと：C 型肝炎ウイルス対策〈広島県〉
  - 20) 支部だより〈長崎県・新潟県〉
- (3) 医会雑誌 Vol. 22 No. 2 発刊
- 1) 二次性副甲状腺機能亢進症の治療ガイドラインをめぐる—管理手段—
  - 2) 透析液清浄化の手段と管理
  - 3) 透析患者における呼吸器感染症
  - 4) 透析患者の脳血管障害
  - 5) 隔日透析の実践と効果
  - 6) 透析患者における鉄投与—‘鉄の囲い込み’現象からみた問題点—
  - 7) リン低下薬 up to date
  - 8) 多剤耐性菌感染症—耐性緑膿菌感染症を中心に—
  - 9) ノロウイルスの感染対策
  - 10) 透析患者における B・C 型肝炎診断と治療の特殊性および問題点
  - 11) 腎臓病に対する創薬の展望
  - 12) 慢性腎臓病対策
  - 13) 維持透析患者の四肢機能に関わる ADL と病態
  - 14) 血液透析患者の鉄の至適指標は低フェリチン高 TSAT—血清 hepcidin, 血清 ferritin, TSAT から—
  - 15) 日本透析医会通常総会資料および主な決定事項
  - 16) 透析で知っておきたい感染症—透析スタッフの視点, 患者の視点から—
  - 17) 透析患者の高リン血症
  - 18) 透析患者に対する腎臓リハビリテーション
  - 19) 国家財政と医療財源
  - 20) 糖尿病による透析導入をアウトカムとする臨床疫学的研究
  - 21) 改定薬事法グッドクオリティープラクティスに準拠した透析液清浄化対策の透析専門クリニックでの取り組み
  - 22) 透析医のひとりごと：10 年間の防災活動を顧みて〈岡山県〉  
厳しい環境で鬱になりつつある医師の繰言〈愛知県〉
  - 23) 支部だより〈奈良県〉
- (4) 医会雑誌 Vol. 22 No. 2 別冊発刊
- 1) 平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金 (医薬安全・医療技術評価総合研究事業)  
[総括研究報告書]  
透析施設におけるブラッドアクセス関連事故防止に関する研究

## [分担研究報告書]

穿刺針および血液回路固定方法と抜針に関する実態調査報告

血液透析中の静脈側抜針事故の実験的検証

医療事故・医療ミスの実態把握と改善への取り組み（愛知県透析医会）

## 2) 平成 18 年度日本財団助成事業

災害医療支援船の実現化に向けた調査・運用訓練の実施 報告書

災害時医療支援船構想 2006 報告記録集

## (5) 医会雑誌 Vol. 22 No. 3 発刊

## 1) 第 12 回透析保険審査委員懇談会について

## 2) 通院困難な透析患者への対応, 及び長期入院透析患者の実態調査

## 3) 第 8 回災害情報ネットワーク会議および情報伝達訓練実施報告

## 4) 能登半島地震 2007—適切な災害対策により防止された被害の記録—

## 5) CAPD のメリット・デメリット—残存腎機能保持と中止基準—

## 6) 透析治療における亜鉛の動態

## 7) 腎再生医療の現状と展望

## 8) 透析患者における骨代謝マーカーの意義

## 9) Critical care nephrology の概念

## 10) 認知症を合併した透析患者への対応

## 11) 透析皮膚掻痒症について

## 12) C 型肝炎ウイルス関連腎症の臨床

## 13) 低血圧・ショックの簡単な心エコー診断

## 14) 2HPT に対する保存療法とその限界

## 15) 副甲状腺摘出術の適応とその手技

16) 低回転骨症に対するビタミン K<sub>2</sub> の有効性に関する研究 (controlled trial)

## 17) 災害時における維持透析患者の被災地域外搬送システ

—情報伝達システムの整備による実際の運営方法の検討—

## 18) 血管音における周波数の時間的変動を指標とするバスキュラアクセスの音響学的評価

## 19) 透析医のひとりごと：夢と希望をもらった出産〈島根県〉

## 20) 支部だより〈青森県・三重県〉

## 8. 学会等助成審査委員会

(平成 19 年度 6 回開催)

以下のとおり学会及び調査研究について申請を受け、審査した。

学 会 等	開 催 日
第 11 回アクセス研究会	平成 19 年 10 月 12 日
第 53 回日本透析医学会学術集会・総会	平成 20 年 6 月 20 日～22 日
第 19 回日本サイコネフロロジー研究会	平成 20 年 6 月 28 日
第 14 回日本腹膜透析研究会	平成 20 年 9 月 13 日～14 日
第 54 回日本透析医学会学術集会・総会	平成 21 年 6 月 4 日～7 日
第 12 回アクセス研究会	平成 20 年 10 月 25 日～26 日

研究課題	研究目的等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急事態における血液浄化及び発展途上国における安価な血液浄化の研究</li> <li>・携帯電話による災害時情報の収集と、新しい情報共有・連携手段の構築</li> <li>・「わが国の慢性透析療法の現況」((社)日本透析医学会)のダイナミック分析による維持透析療法の推移予測</li> <li>・維持透析患者の関節痛・筋肉痛・血管穿刺痛などに対する鍼の除痛効果</li> <li>・透析医療に対する医師と患者の意識の差異と相互理解の推進</li> <li>・わが国の血液透析患者の高血圧コントロール状況と生命予後に及ぼす影響</li> <li>・維持血液透析患者における血清グレリン濃度と栄養状態に関する検討</li> <li>・透析液清浄化の指標となる従属栄養菌培養方法の精度管理および測定結果に対する警戒基準・処置基準値設定のためのジェネラルコンセンサスの形成</li> <li>・長期透析患者に合併する破壊性脊髄関節症の発生病理に関する研究</li> <li>・腎保護療法のデータベース作成における基盤整備に関する研究</li> </ul>	公募助成

## 9. 学会等研究助成交付審査委員会

(平成19年度1回開催, FAXによる審査3回)

以下のとおり学会及び調査研究について審査した。

学会等	開催日
第11回アクセス研究会	平成19年10月12日
第53回日本透析医学会学術集会・総会	平成20年6月20日～22日
第19回日本サイコネフロロジー研究会	平成20年6月28日
第14回日本腹膜透析研究会	平成20年9月13日～14日
第54回日本透析医学会学術集会・総会	平成21年6月4日～7日
第12回アクセス研究会	平成20年10月25日～26日

研究課題	研究目的等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話による災害時情報の収集と、新しい情報共有・連携手段の構築</li> <li>・「わが国の慢性透析療法の現況」((社)日本透析医学会)のダイナミック分析による維持透析療法の推移予測</li> <li>・維持透析患者の関節痛・筋肉痛・血管穿刺痛などに対する鍼の除痛効果</li> <li>・透析医療に対する医師と患者の意識の差異と相互理解の推進</li> <li>・わが国の血液透析患者の高血圧コントロール状況と生命予後に及ぼす影響</li> <li>・維持血液透析患者における血清グレリン濃度と栄養状態に関する検討</li> <li>・透析液清浄化の指標となる従属栄養菌培養方法の精度管理および測定結果に対する警戒基準・処置基準値設定のためのジェネラルコンセンサスの形成</li> <li>・長期透析患者に合併する破壊性脊髄関節症の発生病理に関する研究</li> <li>・腎保護療法のデータベース作成における基盤整備に関する研究</li> </ul>	公募助成

## 10. 情報管理委員会

日本透析医会ホームページを全面的にリニューアルした。

## 平成 19 年度財務諸表

## 1. 貸借対照表 (平成 20 年 3 月 31 日現在)

(単位:円)

勘定科目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
(1) 現預金			
現金	32,633		
ゆうちょ銀行	52,239		
りそな銀行 0984222	1,134,955		
りそな銀行 1437634	1,302,201		
りそな銀行 1441461	511,707		
りそな銀行 1455768	3,490,664		
みずほ銀行	642,717		
三井住友銀行	753,256		
三菱東京 UFJ 銀行	2,073,198		
三菱東京 UFJ 銀行定期預金	49,071,688		
現預金合計	59,065,258		
(2) その他流動資産			
仮払金	66,700		
その他流動資産合計	66,700		
流動資産合計	59,131,958		
2. 固定資産			
(1) 基金			
研究助成事業基金普通預金	162,004,889		
基金合計	162,004,889		
(2) その他固定資産			
電話加入権	563,372		
淡路建物ビル保証金	6,300,000		
警備保証金	50,000		
退職給与引当預金	5,538,725		
その他固定資産合計	12,452,097		
固定資産合計	174,456,986		
資産合計	233,588,944		
II 負債の部			
1. 流動負債			
会費預り金	160,000		
所得税預り金	323,405		
健康保険預り金	58,224		
厚生年金預り金	96,725		
流動負債合計	638,354		
2. 固定負債			
退職給与引当金	5,538,725		
固定負債合計	5,538,725		
負債合計	6,177,079		
III 正味財産の部			
1. 一般正味財産	227,411,865		
正味財産合計	227,411,865		
負債及び正味財産合計	233,588,944		

## 2. 正味財産増減計算書（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）

(単位：円)

勘定科目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 受取入会金			
受取入会金	390,000		
受取入会金計	390,000		
② 受取会費			
受取会費	89,870,000		
受取会費計	89,870,000		
③ 受取寄付金			
受取学会寄付金	77,230,000		
受取助成金	18,900,000		
受取参加費	173,000		
受取寄付金計	96,303,000		
④ 雑収益			
受取利息	214,363		
雑収入	969,000		
雑収益計	1,183,363		
経常収益計	187,746,363		
(2) 経常費用			
① 事業費			
適正透析導入部会	581,714		
適正透析普及部会	879,967		
適正医療経済部会	6,951,471		
医療廃棄物対策部会	254,525		
災害時透析医療対策部会	2,693,433		
感染対策部会	1,033,900		
医療事故対策部会	434,703		
合併症対策委員会	3,087,491		
腎移植普及推進委員会	5,933,466		
腎不全予防医学調査研究委員会	7,654,831		
研修委員会	17,384,750		
広報委員会	13,067,136		
学会・研究助成審査委員会	82,114,521		
日本財団事業	31,412,465		
事業費計	173,484,373		
② 管理費			
給与	10,460,423		
賃金	1,415,000		
法定福利費	1,355,410		
通勤費	215,910		
旅費交通費	311,377		
福利厚生費	54,235		
印刷製本費	180,416		
通信運搬費	468,048		
事務・消耗品費	1,049,940		
委託費	932,115		
報酬	627,777		
水道光熱費	172,009		

(単位：円)

勘定科目	当年度	前年度	増 減
家賃	2,493,978		
諸会費	132,400		
租税公課	3,000		
慶弔費	21,000		
雑費	277,925		
常任理事会費	297,640		
総会・理事会費	1,144,694		
ホームページ管理費	866,250		
退職給付費用	615,437		
管理費計	23,094,984		
経常費用計	196,579,357		
当期経常増減額	-8,832,994		
2. 経常外増減の部			
当期経常外増減額	0		
当期一般正味財産増減額	-8,832,994		
一般正味財産期首残高	236,244,859		
一般正味財産期末残高	227,411,865		
II 正味財産期末残高	227,411,865		

## 3. 財務諸表に対する注記

## 1. 重要な会計方針

## (1) 退職引当金の計上基準

期末退職給与の要支給額に担当する金額を計上することとしている。

## (2) リース引き取りの処理

リース契約により使用している重要な固定資産としては、コピー機、コンピューター、コンピューター関連ネットワーク機器等があります。

## 2. 固定資産の増減額及びその残高

研究助成事業基金普通預金及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基金				
研究助成事業基金普通預金	162,004,889	0	0	162,004,889
小 計	162,004,889	0	0	162,004,889
その他固定資産				
電話加入権	563,372	0	0	563,372
淡路建物ビル保証金	6,300,000	0	0	6,300,000
警備保証金	50,000	0	0	50,000
退職給付引当金	4,923,288	615,437	0	5,538,725
小 計	11,836,660	615,437	0	12,452,097
合 計	173,841,549	615,437	0	174,456,986

## 3. 固定資産の財源等の内訳

基金及びその他の固定資産の財源などの内訳は、次のとおりである。

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの 充当額)	(うち一般正味財産からの 充当額)	(うち負債に 対応する額)
基金				
研究助成事業基金普通預金	162,004,889			—
小 計	162,004,889	(0)	(0)	—
その他固定資産				
電話加入権	563,372			
淡路建物ビル保証金	6,300,000			
警備保証金	50,000			
退職給付引当預金	5,538,725			(5,538,725)
小 計	12,452,097	(0)	(0)	(5,538,725)
合 計	174,456,986	(0)	(0)	(5,538,725)

## 4. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

補助金等の名称	交付者	前期末 残高	当期 増加額	当期 減少額	当期末 残高	貸借対照表上の記載区分
研修会・講演会補助金						
北海道透析医会	大平 整爾				100,000	学会・研究助成審査委員会
青森県透析医会	鈴木 唯司				100,000	学会・研究助成審査委員会
宮城県透析医会	関野 宏				100,000	学会・研究助成審査委員会
鹿児島県透析医会	前田 忠				100,000	学会・研究助成審査委員会
大阪透析医会	小野 秀太				100,000	学会・研究助成審査委員会
広島県透析連絡協議会	土谷晋一郎				100,000	学会・研究助成審査委員会
愛知県透析医会	渡邊 有三				100,000	学会・研究助成審査委員会
学術研究助成金						
広島県透析連絡協議会	土谷晋一郎				1,000,000	学会・研究助成審査委員会
新潟県透析医会	大森 伯				1,000,000	学会・研究助成審査委員会
研究会・公募助成						
第18回日本サイコネフロジー研究会	岡田 洋一				3,020,000	学会・研究助成審査委員会
アクセスセミナー in 札幌	浜田 弘巳				910,000	学会・研究助成審査委員会
NPO 法人いつでもどこでも	日台 英雄				1,000,000	学会・研究助成審査委員会
第11回アクセス研究会	室谷 典義				4,200,000	学会・研究助成審査委員会
第13回日本腹膜透析研究会	川西 秀樹				18,450,000	学会・研究助成審査委員会
第53回日本透析医学会総会	水口 潤				21,000,000	学会・研究助成審査委員会
携帯電話による災害時情報の収集と、 新しい情報共有・連携手段の構築	武田 稔男				10,000,000	学会・研究助成審査委員会
維持透析患者の関節痛・筋肉痛・血管 穿刺痛などに対する鍼の除痛効果	阿岸 鉄三				1,000,000	学会・研究助成審査委員会
「わが国の慢性透析療法の現況」(社) 日本透析医学会のダイナミック分析に よる維持透析療法の推移予測	阿岸 鉄三				1,000,000	学会・研究助成審査委員会
透析医療に対する医師と患者の意識の 差異と相互理解の推進	杉澤 秀博				1,300,000	学会・研究助成審査委員会
わが国の血液透析患者の血圧コントロ ール状況と生命予後に及ぼす影響	井関 邦敏				1,000,000	学会・研究助成審査委員会
維持血液透析患者における血清グレリ ン濃度と栄養状態に関する検討	深川 雅史				1,000,000	学会・研究助成審査委員会
透析液清浄化の指標となる従属栄養菌 培養方法の精度管理および測定結果に 対する警戒基準・処置基準値設定のため のジェネラルコンセンサスの形成	大藪 英一				1,000,000	学会・研究助成審査委員会
長期透析患者に合併する破壊性脊椎関 節症の発生病理に関する研究—椎間板・ 骨破壊病変成立における椎間板細胞ア ポトーシスの関与の可能性	宮崎 滋				2,000,000	学会・研究助成審査委員会
腎保護療法のデータベース作成におけ る基盤整備に関する研究	前田 憲志				1,000,000	学会・研究助成審査委員会
災害医療支援船の実現に向けた調査・ 運用訓練の実施	杉崎 弘章				27,000,000	日本財団事業
合 計		0	0	0	97,580,000	

## 4. 財産目録（平成20年3月31日現在）

（単位：円）

勘定科目	金額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
1) 現預金		
現金	32,633	
ゆうちょ銀行	52,239	
りそな銀行 0984222	1,134,955	
りそな銀行 1437634	1,302,201	
りそな銀行 1441461	511,707	
りそな銀行 1455768	3,490,664	
みずほ銀行	642,717	
三井住友銀行	753,256	
三菱東京 UFJ 銀行 4515871	2,073,198	
三菱東京 UFJ 銀行定期預金	49,071,688	
現預金合計	59,065,258	
2) その他流動資産		
仮払金	66,700	
その他流動資産合計	66,700	
流動資産合計		59,131,958
2. 固定資産		
1) 基金		
研究助成事業基金普通預金	162,004,889	
基金合計	162,004,889	
2) その他の固定資産		
電話加入権	563,372	
淡路建物ビル保証金	6,300,000	
警備保証金	50,000	
退職給与引当預金	5,538,725	
その他固定資産合計	12,452,097	
固定資産合計		174,456,986
資産合計		233,588,944
II 負債の部		
1. 流動負債		
会費預り金	160,000	
所得税預り金	323,405	
健康保険預り金	58,224	
厚生年金預り金	96,725	
流動負債合計		638,354
2. 固定負債		
退職給与引当金	5,538,725	
固定負債合計		5,538,725
負債合計		6,177,079
正味財産		227,411,865

## 5. 管理費内訳（平成 20 年 3 月 31 日現在）

（単位：円）

	平成 19 年度 決算額	按分率	按 分	
			管理費	事業費
給 料	20,920,846	50%	10,460,423	10,460,423
賃 金	2,830,000	50%	1,415,000	1,415,000
法定福利費	2,710,820	50%	1,355,410	1,355,410
通 勤 費	431,820	50%	215,910	215,910
旅費交通費	622,754	50%	311,377	311,377
福利厚生費	108,471	50%	54,235	54,236
印刷製本費	360,832	50%	180,416	180,416
通信運搬費	936,097	50%	468,048	468,049
事務・消耗品費	2,099,880	50%	1,049,940	1,049,940
委 託 費	1,864,230	50%	932,115	932,115
報酬（要源泉）	1,255,555	50%	627,777	627,778
水道光熱費	344,018	50%	172,009	172,009
家 賃	4,987,956	50%	2,493,978	2,493,978
諸 会 費	264,800	50%	132,400	132,400
租 税 公 課	3,000		3,000	0
慶 弔 費	21,000		21,000	0
雑 費	555,850	50%	277,925	277,925
常任理事会費	3,653,550		297,640	3,355,910
総会・理事会費	1,144,694		1,144,694	0
ホームページ管理料	1,732,500	50%	866,250	866,250
退職給付費用	615,437		615,437	
合 計	47,464,110		23,094,984	24,369,126

監査報告書

社団法人日本透析医会の平成19年度決算報告につき慎重に監査した結果  
妥当なものと認めます。

平成20年4月18日

社団法人 日本透析医会

監事 今 忠正 

監事 岩 月 史 郎 

監事 伊 原 善 好 

社団法人 日本透析医会  
会 長 山 崎 親 雄 殿

## 第2号議案

## 平成20年度事業計画書（案）

## 事業計画の概要

## 1. 透析医療の適正化に関する調査研究事業

適正な透析療法の検討に関する調査・研究

**適正透析療法委員会** [委員会のもとに7部会を置く]

透析療法の質的向上と普遍化を目的とする調査・研究

## (1) 適正透析導入部会

適正な導入時期に関する調査・研究

## (2) 維持透析療法部会

適正な維持透析療法に関する調査・研究

## (3) 適正透析普及部会

適正な透析療法の普及推進を行う

## (4) 適正医療経済部会

適正な透析医療経済に関する調査・研究

レセプト分析

施設機能評価の調査・研究

## (5) 医療廃棄物対策部会

医療廃棄物対策に関する調査・研究

## (6) 在宅血液透析部会

在宅治療（CAPD・在宅血液透析等）の適応基準の調査・研究

## (7) 医療制度検討部会

医療制度における透析医療との関連に関する調査・研究

## 2. 地域医療システムに関する調査研究事業

透析施設間の相互連携による地域透析医療システムを確立するための調査・研究

## (1) 危機及び災害時における救急透析医療システムの作成に関する調査・研究

**医療安全対策委員会** [委員会のもとに3部会を置く]

## 1) 災害時透析医療対策部会

- ・平成14年度より災害対策規程及び災害情報運用規則を設け、地域災害対策推進の拡大を図ってきた。平成17年度からは、それまで運営してきた「危機管理メーリングリスト」を終了して、医会会員とその所属する施設で災害対策に関わっている者が参加する「災害情報ネットワークメーリングリスト」と、関係団体の災害対策担当者、および行政関係の担当者をメンバーとする「透析医療災害対策メーリングリスト」を新たに開設した。

- ・平成20年度は、引き続きブロック別災害時救急透析医療システムの構築を図るとともに災害時情報ネットワークへの参加を推進していく。

## 2) 感染対策部会

- ・院内感染実態調査及び感染防止対策の調査・研究

## 3) 医療事故対策部会

・医療事故実態調査及び事故防止対策の調査・研究

(2) 長期透析患者の合併症に対する調査・研究

合併症対策委員会

- 1) 透析導入の初発原因（原疾患・病因等）に関する調査・研究
- 2) 患者の高齢化に伴う収容施設の相互連携化に対する調査・研究
- 3) 患者の長期生存に伴い発生する合併症及びその原因に対する調査・研究

3. 国等公的機関の実施する透析医療科学研究推進事業

厚生科学研究推進委員会

[委員会のもとに1部会を置く]

透析医療IT化推進部会

4. 学術調査研究会等特定公益増進法人助成推進事業

学会等研究助成審査委員会（助成先の適合審査の実施）

学会等研究助成交付審査委員会（助成金の交付審査の実施）

平成19年度は、公募による研究助成9件を含む15件の助成推進事業を実施した。引き続き、特定公益増進法人として助成推進事業の充実、拡大を図っていく。

5. 腎移植普及推進に関する事業

腎移植普及推進委員会

会員及び患者に対しての協力・普及を目的とする。

- (1) 臓器移植推進月間・腎バンク及び地方腎移植推進システムへの協力
- (2) 会員に対する腎移植の啓発・教育  
(脳死問題を含む講演会及び腎移植広報活動等)
- (3) 患者に対する腎移植推進  
(会員の日常業務として、地区患者を対象とする推進協力)
- (4) 関係団体への協力事業  
(医療施設や遺族に対するドネーションの啓発)
- (5) 腎移植コーディネーター問題の研究

6. 腎不全予防医学の調査研究事業

腎不全予防医学調査研究委員会

- (1) 透析導入を予防し、残腎機能を維持させるための調査・研究  
透析導入前の慢性腎不全患者に対する保存的維持療法の調査・研究及び関係団体への協力について推進する。
- (2) 19年度はわが国腎臓病の実態（疫学）から始まりCKD対策・腎疾患予防と早期診断、個々の腎疾患解説、病態に応じた具体的な治療、社会復帰までを対象とした「腎不全治療マニュアル」を改訂出版した。

7. 研修等事業

研修委員会

- (1) 腎不全臨床医療スタッフの研修会（シンポジウム、セミナー）の開催

- (2) 学術研究への協力
- (3) 関係学会・団体との研究協力
- (4) 国内講演会等の開催

8. 広報活動及び刊行物の発行に関する事業

広報委員会

機関誌等の発行

- (1) 医会雑誌（年3回発行）  
内容充実に一層の努力をする。
- (2) 医会ニュース・速報等  
必要の都度、発行する。

9. 会員の教育・研修及び倫理向上に関する調査研究事業

倫理委員会

会員の倫理向上に関する調査・研究

10. 情報の公開等適正管理及び情報管理に関する事業

情報管理委員会

本会が保有する文書，図画，図面及び電磁的記録等の情報公開の管理，適正保管及びその創意工夫等の調査研究

- ・平成14年度より，情報管理規程を設け，情報公開等の適正活用を推進している。引き続き既存ホームページの内容の充実と関係団体への情報提供の拡大を図る。18年度は，新情報をいち早く知って頂くために希望する会員への同報メールシステムを開始した。19年度に既存ホームページを全面リニューアルした。

## 平成 20 年度予算 (案)

## 1. 収支予算書 (平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日まで)

(単位:円)

勘定科目	平成 20 年予算額 (案)	平成 19 年予算額	増 減
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
(1) 入会金収入			
入会金収入	510,000	900,000	-390,000
入会金収入計	510,000	900,000	-390,000
(2) 会費収入			
会費収入	91,000,000	91,000,000	0
会費収入計	91,000,000	91,000,000	0
(3) 寄付金収入			
学会寄付金収入	109,990,000	137,400,000	-27,410,000
参加費収入	440,000	425,000	15,000
寄付金収入計	110,430,000	137,825,000	-27,395,000
(4) 雑収入			
受取利息	180,000	20,000	160,000
雑収入計	180,000	20,000	160,000
事業活動収入計	202,120,000	229,745,000	-27,625,000
2. 事業活動支出			
(1) 事業費支出			
適正透析導入部会	576,200	571,630	4,570
維持透析療法部会	691,400	685,980	5,420
適正透析普及部会	1,325,200	1,314,740	10,460
適正医療経済部会	9,161,400	9,317,590	-156,190
医療廃棄物対策部会	1,117,800	697,380	420,420
在宅血液透析部会	495,500	491,610	3,890
医療制度検討部会	207,400	617,350	-409,950
災害時透析医療対策部会	4,844,600	5,784,910	-940,310
感染対策部会	1,394,400	583,080	811,320
医療事故対策部会	1,509,600	525,890	983,710
合併症対策委員会	3,514,700	3,486,950	27,750
腎移植普及推進委員会	6,222,800	6,882,440	-659,640
腎不全予防医学調査研究委員会	124,500	5,963,270	-5,838,770
研修委員会	10,624,900	23,391,160	-12,766,260
広報委員会	16,986,000	15,228,270	1,757,730
倫理委員会	180,000	180,000	0
学会・研究助成審査委員会	127,337,200	89,174,520	38,162,680
学会・研究助成交付審査委員会	290,400	288,110	2,290
日本財団事業	0	30,868,120	-30,868,120
事業費支出計	186,604,000	196,053,000	-9,449,000
(2) 管理費支出			
給与	10,475,000	10,400,000	75,000
賃金	1,500,000	1,500,000	0
法定福利費	1,450,000	1,350,000	100,000
通勤費	220,000	220,000	0
旅費交通費	300,000	400,000	-100,000
会議費	100,000	100,000	0
交際接待費	0	50,000	-50,000
福利厚生費	75,000	90,000	-15,000

(単位：円)

勘定科目	平成 20 年予算額 (案)	平成 19 年予算額	増 減
印刷製本費	200,000	200,000	0
通信運搬費	600,000	600,000	0
事務・消耗品費	1,100,000	1,100,000	0
委託費	950,000	950,000	0
報酬 (要源泉)	650,000	650,000	0
諸謝金	0	150,000	-150,000
水道光熱費	175,000	175,000	0
家賃	2,350,000	2,500,000	-150,000
諸会費	150,000	150,000	0
租税公課	5,000	5,000	0
慶弔費	50,000	50,000	0
雑費	255,000	210,000	45,000
常任理事会費	300,000	300,000	0
総会・理事会費	1,200,000	800,000	400,000
ホームページ管理料	1,000,000	1,000,000	0
管理費支出計	23,105,000	22,950,000	155,000
事業活動支出計	209,709,000	219,003,000	-9,294,000
事業活動収支差額	-7,589,000	10,742,000	-18,331,000
II 投資活動収支の部			
(1) 特定活動支出			
退職給付引当資産取得支出	598,000	802,000	-204,000
特定活動支出計	598,000	802,000	-204,000
III 予備費支出	2,000,000	2,000,000	0
当期収支差額	-10,187,000	7,940,000	-18,127,000
前期繰越収支差額	15,368,000	7,428,000	7,940,000
次期繰越収支差額	5,181,000	15,368,000	-10,187,000

## 2. 管理費内訳

(単位：円)

	平成20年度 (案)	按分率	按 分	
			管理費	事業費
人 件 費	27,290,000	50%	13,645,000	13,645,000
給 料	20,950,000	50%	10,475,000	10,475,000
賃 金	3,000,000	50%	1,500,000	1,500,000
法定福利費	2,900,000	50%	1,450,000	1,450,000
通 勤 費	440,000	50%	220,000	220,000
家 賃	4,700,000	50%	2,350,000	2,350,000
その他経費	15,765,000	50%	7,110,000	8,655,000
旅費交通費	600,000	50%	300,000	300,000
会 議 費	100,000		100,000	0
福利厚生費	150,000	50%	75,000	75,000
印刷製本費	400,000	50%	200,000	200,000
通信運搬費	1,200,000	50%	600,000	600,000
事務・消耗品費	2,200,000	50%	1,100,000	1,100,000
委 託 費	1,900,000	50%	950,000	950,000
報酬(要源泉)	1,300,000	50%	650,000	650,000
水道光熱費	350,000	50%	175,000	175,000
諸 会 費	300,000	50%	150,000	150,000
租 税 公 課	5,000		5,000	0
慶 弔 費	50,000		50,000	0
雑 費	510,000	50%	255,000	255,000
常任理事会費	3,500,000		300,000	3,200,000
総会・理事会費	1,200,000		1,200,000	0
ホームページ管理料	2,000,000	50%	1,000,000	1,000,000
管 理 費 計	47,755,000		23,105,000	24,650,000

## 平成 20 年度通常総会報告

### 山崎親雄会長挨拶

通常総会の開催に先立ちまして一言ご挨拶申し上げます。本日はご多忙のところご出席いただきありがとうございます。今年度に関しましては診療報酬改定の年でございました。2002年（平成14年）以来続いております経済・財政諮問委員会の指示により、毎年2,200億円の社会保障費削減が実施されております。2,200億円の削減と申しますのは、国家予算としての2,200億円の歳出削減で、医療費に換算しますと、約25%が国の負担です。8,800億円の医療費の削減をしていくということになります。社会保障費の切り下げですから、年金や福祉部分への割り当てや、保険者負担への振替などがありますが、医療費については、具体的には診療報酬点数が切り下げられ、患者の自己負担が増大し、薬価や特定医療材料費の切り下げとなります。

ところが今回の改定は、幸運なことに、日本医師会の常務理事で中医協委員の鈴木 満先生は、ご存知の通り日本透析医会の専務理事をしていただいた先生ですから、透析について、特に時間区分の重要性について、積極的に発言してくださいました。さらに医療課原課長は、医療の質が良くなるような改定がしたいという考えをお持ちでおられました。今回の透析時間の復活に関しても、われわれであるとか、あるいは全腎協が、透析時間の復活こそが予後を改善するのだという主張をし、ご理解いただきました。これらの状況が重なった上で、平成14年の廃止から6年を経て、時間区分による技術料が復活したという大変喜ばしい結果が生まれました。

さて、前回18年の改定では、エリスロポエチンの包括ということで、日本透析医会が強くそれを支持しました。アメリカがエリスロポエチンの包括をしたときには、あつという間に貧血が悪化したとして、次の改定ではエリスロポエチンの包括をなくしたと聞き及んでいます。それに比べ日本のお医者さんといいますのは、そういう部分はちゃんと矜持をもってことに当たられ、貧血が悪化することなく対応されました。その結果、今回の診療報酬改定で、エリスロポエチンまたはダルベポエチンが包括されている外来人工腎臓点数が、引き下げられることなく済んだというのは、大変喜ばしいことと思います。

ただ、2年後の改定に関しましては、そして、その時も、2,200億円の削減というのが続いていけば、今回のようないろいろな幸運が重なった改定になるかは保証できないし、むしろ今から危機感を持ちながら対応していけないといけないかなと思っています。

ところで日本透析医会は、診療報酬改定対応だとか、あるいはリスクマネジメント、危機管理対策だとか、最近では特にその分野に関連した厚労省などの班研究をやってきました。ただ、今いろいろな問題を考えると、活動の範囲が、果たして今までの分野だけに留まっていいいのかという問題がでてきます。

例えば診療報酬の部分でいいますと、ダイアライザー価格に関しては、今までわれわれは全く関与してきませんでした。今回でも、せっかく診療報酬改定がうまくいったのに、ダイアライザーが大幅に下がってしまいました。それに関して、はたして医会は責任があるのかという問題です。私自身は、今までは関与すべきでないと認識をしておりましたが、いきなり透析医療を支えるダイアライザーメーカーが立ち行かなくなったら大変なことで、そういう部分にも関与が必要かと考え、そのためにはデータの収集が必要と考えています。

そのほか、深刻な問題は、高齢化していく透析患者の治療の場の問題です。長期の入院であるとか、長期の入所であるとか、あるいは入院困難の人の送迎の問題とか、そういう問題も必ず取り上げなくてはならないと思っています。で、その時に、今までの診療報酬とか、災害、事故、感染防止とかには何とか対応出来ていましたが、今後もっと大きな広がりをもっていくことになると、医会そのものの陣容といいますか、ほんとうに会員の皆さんにもっと大きな協力をしてもらう必要があると思っております。その部分を強化していきたいと考えています。また、患者会あるいは医器工だとか、日本透析医学会などより緊密な関連を持ちつつ、共同の作戦を練ら

なくてはならないかと思っています。

いずれにしても、今回の改定は上手くいきました。しかし2年先、4年先、6年先を考えますと、決してバラ色の世界が広がっているわけではなく、むしろ茨の道をかきわけてと言わんばかりの話ばかりです。そういうことにならないように、治療を受けられる患者さん達のために透析医会は活動しなければと思っていますし、その中で透析医療機関も経営が成りたって、幸せな良い医療が出来るように祈念して、挨拶の言葉にかえさせていただきます。

## 議長選出

吉田豊彦 副会長 を選出

## 議事署名人選出

鈴木正司 常務理事

小野山攻 常務理事 を選出

## 議 事

第1号議案 平成19年度事業報告及び財務諸表の承認を求める件

第2号議案 平成20年度事業計画及び予算の承認を求める件

第3号議案 その他

以上について審議し承認された。総会での質疑応答に関して次のように「Q&A」方式でまとめた。

## 総会での質疑応答

- Q：貸借対照表の前年度がないのは、(公益法人の新会計基準が)今期が最初だからですか？  
A：そうです。
- Q：公益法人の改訂で、管理費と事業費を按分しているわけですね？  
A：新しい法人のルールではなくて従来からあるものです。日本透析医会の事業といたしまして管理費と事業費の比率が、管理費30%、事業費70%という、これは法人のルールとして従来からあるものです。職員が例えば広報委員会の仕事で動いたときに、一方で管理業務として働きますし、事業業務として活動することもあります。これは随分昔から、厚労省にご相談申し上げて、管理費と事業費に、その時その時の活動に従って按分してもらっていましたが、例えば事業費でしか請求できないものもありますし、管理費としては請求できないものもあるということで、いずれにしても同じスタッフの活動をどういうふうに分けるかについて、事業費と管理費に按分しているわけです。新しい法人の仕組というわけではなく、従来からあるものです。
- Q：事業計画の中の合併症対策委員会の「患者の高齢化に伴う収容施設の相互連携化に対する調査・研究」についてですが、昨年度、送迎や入院等についてのアンケート結果を拝見しましたがけれども、今後、入院・送迎について具体的に医会として案をお持ちでしたら教えて下さい。  
A：アンケートの際に様々な問題点をいろいろな先生から自由記載という形式で、出していただきましたが、実際に現在どういった形で、方針として、医会として働きかけていくのか、まだハッキリと決まっていないという状況です。大きな問題になっていくだろうというのは、多くの先生方が認識はしていただいておりますが、それを医会としてどういうふうに進めていくべきなのか、患者会との関係ですとか、様々な問題がある程度総括的に決めて動かないと、なかなか難しい問題になっていくのではないかと思います。今後、真剣に理事会等で検討していきたいと思えます。
- Q：日本腎臓学会や日本透析医学会は国のCKD対策に参加しているが、医会としてどのように関与していくのか。

A：基本的には、現在、日本腎臓学会がイニシアティブをとってやっているわけですが、日本腎臓学会は日本透析医学会には声をかけましたが、透析医会には声がかかりませんでした。現時点では透析医会としましては、そういった集まりがあるというところをいろいろな点で支えさせていただいておりますが、中に入って何かをやっていくという点では参加をしております。残念ながら、一番最初にイニシアティブをとりました日本腎臓学会の認識が、透析医会ではなくて、透析医学会の方に向いたということで、そういった意味では、さしあたって見させていただいている状況です。直接、われわれのほうから役員をCKDの活動の中に入れてという話は出てきていません。

5. Q：CKD対策ってというのは、学問的なことが多いのかもしれませんが、1つは透析医療費が日本だけでなく他の国でも増加しているというのが、根底にあると思うのです。だから、医療経済動向とか学会では、どのように認識されているのか分からないですけど、透析医会もある程度、透析患者を増やさないためにも色々な啓蒙活動が必要だと思うし、それにはやはり、患者会と連携をとって、いろいろな方法、啓蒙活動をしていくのが良いのかと私は思っています。そうなりますと学問的に医療社会学というのでしょうか、そういった言葉があるのか知りませんが、もうちょっと広い学問を包括した社会現象としての対策を立てないといけないのではないかと、最近思うようになったんですけど、そのためには、やはり患者会、もちろん腎不全になってしまったら、こういう風に週に何回もの治療で大変だというようなことを患者さん自身に語ってもらうことも必要なかなって思っています。できれば、“日本腎不全協会”とでも言いましょか、そのような医療側あるいは患者側、あるいは行政も含めた大きい組織をもう1度作り直してやるほうがいいのかという気がしているのです。糖尿病学会はご存知のとおり昔から日本糖尿病協会というのがあって、学会として患者活動のいろいろ啓蒙をされているようですが、透析部門についても、そういう組織が必要でないかなと思うのですが、これは私の意見ですけど。

A：色々な事情がありまして、日本透析医会と医学会が別々になりました。当時は、透析医学会の先生方から見ますと、医師がお金の話をするなんて……という大変な苦勞をしながら、初代の稲生会長は透析医会を設立されていったわけです。厚生官僚の見方も、稲生先生への評価は“絹のハンカチを泥に染めて”というようなものでした。しかし、今は、日本透析医学会の中で医療経済だとかそういったものを考えない学会・総会はありません。必ず1つ2つはワークショップなどに経営の問題が含まれるようになってきて、確かに、かなりの部分で共通する仕事が増加しています。いつの日か、それぞれ違う役割をもってはいるものの、本当に医会と医学会が同じ土俵の上で、活動できる日が来ると想像しています。

6. Q：今年度の予算の収支決算で約1,000万円くらい赤字。19年度の決算では繰越が約2,200万円くらいあって、それが、今年度は1,000万円の赤字で繰越が500万円しか残らないということで、同じペースで来年も1,000万円も赤字になっていったら転落してしまうのではとの心配もあるのですが。

A：公益法人では、あまり残していく（繰越）というのが好ましくないということなので、だんだんゼロに持っていくということですね。

（補足回答）

日本透析医会が設立されるに際しまして、参加していただいた医療機関から、2億3,500万円の基金が集められました。ところが、最終的に社団法人になりまして、結果的には基金が不要ということになりました。そこで、そのお金に関しまして、提供していただいた医療機関に対し「もし必要ならばお返ししますが」というお話をしましたところ、ほとんど100%の医療機関が、「どうぞ日本透析医会で使って下さい」ということでした。患者さん一人当たりいくらというような計算で集められましたが、私のところで400万円くらい、吉田先生のところで800万円くらいというような額となりました。今でも繰り越されて2億円という大きな繰越額になっています。今までに使わせてもらったのは、1つは、現在の透析経営状況を分析し、将来の透析医療機関の経営だとか、透析医療そのものがどうなるのだろう

かという事を調査するための研究費として、臨時総会で皆さんに了承いただき、日医総研に委託し、『透析のグランドデザイン』をということで日本透析医会雑誌に報告しました。1,500万円くらい使わせてもらいました。それと、当時は班研究をやっていまして、コンピュータを用いた透析合併症の自動診断・支援システムの開発に対しても1,500万円くらい使わせてもらいました。

基本的には、そういう形で財産を有効に使えるのが一番いいわけで、だんだんと赤字が積み重なって消えていくよりも、もっと思い切った使い方をしたいと思っています。例えば2002年にやった将来展望みたいなものを、もう一度、あらためて見直さないといけないと考えています。診療報酬もドンドン低下していますので、その後の経営状況も変化していますし、入院が一体どういう形になっていくのかというようなものを出す。ただ出すのではなく、それを用いて、日本透析医会が政策提言をしていくというようなことを考えていきたい。ただ、毎年毎年、赤字で減らしていくのは好ましくないと思います。

7. Q: 37頁の要望書の中の「とても体の大きい患者や、活動量の多い患者では5時間以上透析を選択されます」という文言があって、もう少しハッキリいってもいいのではないかと思います。

A: 厚労省としては、少なくとも4時間未満透析がどんどん増えていっていることの情報を持っていました。生命予後がそんなに悪いものなのに、どうして短時間透析が増えていってしまうのか、と突かれたらどうするのですか、という話がありました。どういうことかといいますと、そういう短時間透析を選択した医者は悪い医者という世論の指摘も出てくるでしょう、というのが厚労省の心配の1つ。彼らのエクスキューズであったのかもしれませんが、一方で透析全体に対する配慮があったということかもしれません。また、長ければ長いほどいいという言い方を、それだけで言ってしまうと、ではなぜ4時間透析で、どうして標準的な透析を5時間にしないのだとか、あるいは本当に6時間が良いのであれば、なんで皆さん6時間やらないの、という問題にすりかわる可能性があります。だから、決して今までやってきたことを悪者にしてはいけない。僕なんかは厚労省に対しては、悪者にしても結構です、とまで言い切ったのですが、厚労省自身はそのへんのところを考えて、表現がこういうふうになったということでご理解下さい。

#### 〈追加発言〉

- 1) 鹿児島県の前田忠先生による、鹿児島県における腎不全対策（検診の公費負担等）についての紹介。
- 2) 4月に、沖縄県から、沖縄県の透析医療機関に対して、レセプト上の診療内容について、透析と透析に関連しない部分を分けなさいという指示がありました。昨年4月に厚労省から、いわゆる医療扶助（生活保護）について、障害者自立支援法との兼ね合いで医療請求を認めるという新しい仕組みが出来上がりました。その時に、どこまでが医療扶助（透析に関連しないもの）でどこまで障害者自立支援法かという区分けをするという問題が出てきました。そのとき、東京都が、さっさと、透析とシャントに関連する以外は透析医療ではないという文面の書類を出しました。これに対して千葉市が同じような、この時点では東京都と千葉市がそういう問題を医療機関に通知したわけです。これに対し、日本透析医会が関与させていただきました。結論としては、良識的な判断（主治医の良識的な判断）で、自立支援法の対象かどうかの線引きするようという回答をいただきました。

ところが、この4月になって沖縄県から、あらためて同じ問題が出てきました。焦点になったのは、糖尿病性腎症の場合、これがもとで腎障害が起こっているわけですけど、原疾患としての糖尿病は障害者自立支援医療とは関係ありませんということで、厚生労働省もそういう考え方をもっています。結局、最終的には沖縄県の出した通知が撤回されたものなのか、凍結されたものなのか、具体的な処理は分かりませんが、従来どおりとなりました。もしかしたら、今後、各地域でこういう問題が出てくるかもしれません。しかしながら、これに対して答えは出ておりますので、どこで問題が起こりましても、ご相談していただければ、もう去年の4月に答えが出ていますし、今年4月に沖縄県でも回答が出たわけですから、いまさら県行政が

勝手に実施しようと思ってもそうはいかないということです。

3) ヘパリンの自主回収についてです。ヘパリンの自主回収の対象となりましたメーカーは6割くらいのシェアーをもっていて、最初の自主回収はクラスIIと呼ばれているもので、予防的な回収でした。2回目の5月の連休前に行われた自主回収はクラスIと言って、色で言うと真っ黒です。最初の段階は白に近い灰色だったわけですが、自主回収が行われた。一応、おさまりつつあるのですが、メーカーに聞きますと、ああいう問題が出ると新しく今まで契約していなかった所からのヘパリンの入手が大変難しくなるということでした。米国だけの問題だけではなく、実はヨーロッパ、オーストラリアでも問題になっていて、イタリア等でも自主回収が行われたのです。ということで、まだちょっと不安定な部分があるのかなと思っています。加えて、四川省で地震があり、中国の食用豚の11%が四川省。実は、その豚の腸管からヘパリンは抽出されているわけですから、今度は本当の原材料としての供給不足が問題となっていくかもしれません。われわれが何か出来るという問題ではないのですが、ヘパリンの問題というのは、まだ終わっていない問題かなという気がします。こういう問題が発生すると、厚労省から日本透析医会のほうに専門家としての意見を求められる。いちおう対応できるような仕組になっていますので、地方行政で何か問題があれば、医会のほうにお尋ねいただければよろしいし、地方で起こった問題に関しましても医会が関与していくということになるかと思います。

4) 今回の診療報酬改定は上手にいったと思うのですが、ダイアライザー価格が大幅に下がった。一体何を根拠に決められたのか、誰も知らない。一斉価格の調査による結果ということが公表されているわけです。

3月末に支部長会議を行い、診療報酬改定の説明会を行いました。もし、日本透析医会がダイアライザー価格までに関与しようと思うと、われわれ自身がコストについての資料を持たない限り交渉もできないということでした。果たして、皆さんのところへA社からいくらで買っていますか、というアンケートを出した時に、どのように考えられるか、ちょっと良くわからない。6月に行われます支部長会でもお話しようと思いますが、今日は帰られまして、これを支部の中で話してもらいたい。

同様に、将来展望を推測するグランドデザインを検討したときは、3年間の医療機関の財務諸表をすべて出してもらおうという調査を行ったわけですが、今でもそのような調査が可能なかどうか、そういうものを見せ合っても、防衛策を講じないといけないのかなという気もしていますので、いつかお願いをするかもしれません。

(文責 杉崎弘章)

## (社) 日本透析医会通常総会議事録

- 1. 会議の種類 平成 20 年度 通常総会
- 1. 開催場所 ホテルマイステイズ御茶ノ水 ホール A (東京都千代田区神田淡路町 2-10-6)
- 1. 開催日時 平成 20 年 5 月 18 日 (日) 午後 14 時 00 分～15 時 30 分
- 1. 会員総数 1,205 名
- 1. 出席会員数 606 名 内訳 本人出席 18 名 書面出席 588 名

### 1. 議事の経過

定刻に到り、事務局長水本進氏から「本日の通常総会出席会員数は、定数を満たしたので有効に成立した。」旨、告げられた。

初めに会長山崎親雄氏から挨拶があり、併せて本日の総会議長の選出が諮られ、満場一致をもって副会長吉田豊彦氏が選任された。

吉田議長は、挨拶に続き議事録署名人に常務理事の小野山攻氏及び、鈴木正司氏の両名を指名し、両名とも満場一致で選任された。

続いて議案の審議に入った。

### 第 1 号議案 平成 19 年度事業報告及び財務諸表の承認を求める件

常務理事山川智之氏から、総会資料に基づき事業報告について、1. 会議 2. 委員会 3. 会務報告の順に説明があり、併せて専務理事杉崎弘章氏から、財務諸表について詳細な説明が行われた。続いて監事伊原美好氏から「平成 19 年度決算の監査結果は、妥当であった。」旨、報告された後、議長による採決が行われ、満場一致で承認された。

### 第 2 号議案 平成 20 年度事業計画及び予算の承認を求める件

常務理事山川智之氏から、総会資料により前年度事業実績に基づく 20 年度事業計画(案)の概要の説明があり、続いて専務理事杉崎弘章氏から、予算(案)の説明が行われた後、議長による採決の結果、満場一致で原案どおり可決承認された。

### 第 3 号議案 その他

質疑応答「透析患者の老齡化及び CKD 対策」等、透析医療の将来展望、問題点等々、自由活発な討論が行われた。

15 時 30 分をもって、通常総会の議案総てを終了し、議長は閉会を宣し解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長並びに議事録署名人がこれに署名押印する。

平成 20 年 5 月 18 日

社団法人日本透析医会通常総会に於いて

議 長 吉田豊彦 

議事録署名人 小野弘次 

同 鈴木正司 

## (社) 日本透析医会 役員名簿

役 職 名	氏 名	現 職
会 長	山 崎 親 雄	増子クリニック 院長
副 会 長	吉 田 豊 彦	医療法人社団誠仁会 理事長 (みはま病院)
	大 平 整 爾	医療法人社団恵水会 札幌北クリニック 院長
専務理事	杉 崎 弘 章	医療法人社団心施会 理事長 (八王子東町クリニック)
常務理事	小野山 攻	医療法人小野山診療所 理事長
	鈴 木 正 司	社会福祉法人新潟市社会事業協会 信楽園病院 顧問
	山 川 智 之	特定医療法人仁真会 理事長 (白鷺病院)
	隈 博 政	医療法人くま腎クリニック 理事長
	太 田 圭 洋	医療法人名古屋記念財団 理事長 (名古屋記念病院)
理 事	井 形 昭 弘	名古屋学芸大学 学長
	太 田 和 夫	太田医学研究所 所長
	山 下 眞 臣	社団法人日本国民年金協会 顧問
	澤 宏 紀	元国立健康・栄養研究所 所長
	前 田 憲 志	医療法人有心会 理事長 (大幸砂田橋クリニック)
	藤 見 惺	医療法人医心会福岡腎臓内科クリニック 院長
	松 田 鈴 夫	国際医療福祉大学 教授
	秋 澤 忠 男	昭和大学医学部腎臓内科 教授
(北海道)	戸 澤 修 平	医療法人北辰 クリニック1・9・8 札幌 理事長
(東 北)	関 野 宏	医療法人宏人会 理事長 (宏人会中央病院)
(東 北)	村 上 秀 一	医療法人三良会 村上新町病院 院長
(関 東)	黒 田 重 臣	くろだ明大前クリニック 院長
(関 東)	秋 葉 隆	東京女子医科大学腎臓病総合医療センター血液浄化部門 教授
(甲信越)	土 屋 隆	医療法人輝山会 理事長 (輝山会記念病院)
(中 部)	指 出 昌 秀	医療法人社団一秀会 理事長 (指出泌尿器科)
(関 西)	宮 本 孝	医療法人平生会 理事長 (宮本クリニック)
(関 西)	青 木 正	社会福祉法人 京都社会事業財団 西陣病院 顧問
(中 国)	土 谷 晋一郎	医療法人あかね会 理事長 (土谷総合病院)
(中 国)	山 下 達 博	医療法人社団博寿会 理事長 (山下医院)
(四 国)	寺 尾 尚 民	医療法人尚腎会 理事長 (高知高須病院)
(九 州)	新 里 健	医療法人社団健昌会 理事長 (新里ネフロクリニック)
監 事	今 忠 正	医療法人社団恵水会 札幌北クリニック 理事長
	岩 月 史 郎	弁護士
	伊 原 美 好	公認会計士
名誉会長	稲 生 綱 政	医療法人大坪会 東和病院 名誉院長
	平 澤 由 平	社会福祉法人新潟市社会事業協会 信楽園病院 顧問